

つながりのある授業

国語科「ずうっと、ずっと、大好きだよ」 1年生 1月

ねらい

教科書にある文章を根拠に、「ぼく」と「エルフ」の関係について友だちと話し合うことで、お互いをどう思っていたのかを考え、伝えることができる。

幼児期とのつながり

- ①子どもたちが教材文を楽しみ、問いをもてる単元の授業設計
(数週間かけてじっくりと教材文を味わう。一人一人が疑問に思ったことを出し合い、解決していくとともに、みんなで考えたい問いをクラス全体で考えていくなど。)
- ②想像を膨らませやすい教材の準備(動物「エルフ」の具体物に触れる。教材文の拡大掲示に問いや導き出した答えを書き込むなど。)
- ③子どもたちが安心して意見を出し合える教師の働きかけ(子どもたちの意見に共感したり、認めたり、問いかけたりする。また、友達同士も安心して聞き合える集団作りをするなど。)

実践内容



板書の1例

【時間をかけて教材文を楽しむ・問いをもつ】

- ・じっくり、何度も読むことで、「エルフ」のことを「ぼく」は大切にしていたのが分かるな。
- ・次は、みんなで、なぜ「ぼく」が「エルフ」のことが大好きなのか考えたいな。



「エルフ」の人形



右:教材文の拡大掲示
左:子どもたちが作成した掲示物

【想像が膨らむ教具・教材の提示】

- ・かわいい「エルフ」に触れると、「ぼく」が「エルフ」を大事にしていたのがわかるな。
- ・私も「ぼく」と「エルフ」の絵を描いて貼ってみよう。

ぼくは、なぜ となりの子にエルフのバスケットをあげたのかな。



【安心して意見が出し合える教師の働きかけ】

- ・なぜ隣の子に「エルフ」のバスケットをあげたのか、友達の意見を聞いてみたいな。
- ・バスケットを友だちにあげることで、エルフが大切だったことをもっと伝えていきたいと思ったんじゃないかな。

授業を振り返って

幼児教育の中では、ある大きな取組があった際、数か月かけてじっくりその作品や世界に触れる時間を設定することで、子どもたちの感性が育まれる。今回、1年生でもその視点を取り入れ、数週間前より教材文を音読し、掲示物や「エルフ」の人形を用意したことで、この本教材を深く考えることができた。実際、子どもたちは自発的に「エルフ」と「ぼく」の絵を描いて掲示したり、「ぼくは、なぜとなりの子にエルフのバスケットをあげたのかな」という問いを立てて話し合ったりすることができた。架け橋期の子どもたちが夢中になって作品に浸り、意見を出し合えるように、時間や教具、環境を整えることが大切だと実感している。